



瀬戸内海国立公園

成ヶ島



高崎側から成山を望む



環境省 近畿地方環境事務所 神戸自然保護官事務所

《瀬戸内海国立公園》

■国立公園

国立公園とは、自然公園法により指定された日本を代表する傑出した自然の風景地です。全国で30を超える国立公園が指定されており、国土面積の6%程度を占めています。

国立公園内では、自然環境や景観に影響を与える行為の規制が行われるとともに、国立公園の利用のため歩道等の整備や荒廃した自然環境の再生等が行われています。国立公園の指定・管理は環境省の所管で、自然保護官と呼ばれる環境省職員が管理に携わっています。

■瀬戸内海国立公園

瀬戸内海国立公園は、静かな内海に多くの島々が点在する美しい自然景観と、古くから地域の人々の暮らしがもたらした人文景観が調和した独特の景観を有しています。瀬戸内海国立公園は日本初の国立公園として、昭和9年に岡山県の鷺羽山を中心とした地域が指定され、その後2回の追加指定を経て、和歌山県から大分県(1府10県)までの広がりをもつ、広大な国立公園になりました。

〈お問い合わせ先〉

- ・近畿地方環境事務所 神戸自然保護官事務所
TEL:078-331-1146 FAX:078-331-1148
- ・近畿地方環境事務所 国立公園課
TEL:06-6881-6504 FAX:06-6881-7700
- ・洲本市 商工観光課
TEL:0799-22-3321 (代表)
- ・洲本市役所由良支所
TEL:0799-27-1221

《成ヶ島の概要》

成ヶ島は大阪湾の入り口に位置する淡路島東端の小島です。

地形は、北側の成山(標高約50m)と南側の高崎を結ぶ約3kmの砂州によって形成され、由良瀬戸側は外洋性の砂礫海岸、由良湾側は潟干潟からなる自然海岸です。また、島の中央部には塩沼地、塩沼湿地(満潮時には海水につきり、干潮時には干上がるような砂泥地)が存在します。

成ヶ島の自然植生は「兵庫県版レッドデータブック(2020)」のAランクに登録されており、ハママツナ、ハマサジ、アイアシなどの海浜植物や、ハクセンシオマネキ、スジエビモドキなどの塩沼地に住む海岸動物も観察できます。成山山上の展望台からの眺望は素晴らしく、かつて「淡路橋立」と呼ばれた成ヶ島を一望できます。また、成ヶ島は平成28年(2016年)に淡路島日本遺産の構成文化財の一つとして認定されました。

成ヶ島の「兵庫県版レッドデータブック」指定状況		
地 形	Aランク	成ヶ島(沿岸州、ラグーン)〔日本を代表する大規模かつ典型的なもの〕
自然景観	Bランク	海岸景観樹林(大阪湾では数少ない豊かな緑に覆われた島と自然海岸と海上の船)
地 質	Bランク	地質、化石、堆積構造〔和泉層群灘類型(含イノセラムス化石)及び砂州〕
植物群落	Aランク	自然植生〔海浜植物群落、塩沼地植生、ウバメガシ群落〕
生態系	Aランク	干潟、藻場、塩性湿地や海岸性の低木群落など、様々なタイプの生態系

過去には、キャンプ場や市営の国民宿舎「成山荘」があり、海水浴やキャンプを楽しむ客が成ヶ島を訪れて賑わいを見せていましたが、次第に客足は減少し昭和61年(1986年)に成山荘が廃業して以降は無人島になりました。そのため現在も、貴重な海岸動植物が残されると共に白い砂州からなる美しい姿をとどめています。



絶景 淡路橋立



成山荘(昭和61年に廃業)

これらの豊かな自然、美しい風景は地域の人々の長年の努力によって保たれています。洲本市立由良中学校・PTAでは、地域や行政機関とともに松の植樹や清掃活動を行う「成ヶ島クリーン作戦」を30年以上も続けているほか、地元団体(国立公園成ヶ島を美しくする会)では清掃活動、特定外来生物の防除、自然に関する普及啓発活動などを行っています。環境省では、地域が守ってきた成ヶ島の自然、風景を多くの人々に伝えるため、遊歩道や案内標識、展望台などの整備を行っています。



自然観察会の様子



成ヶ島クリーン作戦の様子

《成ヶ島の植生と四季》

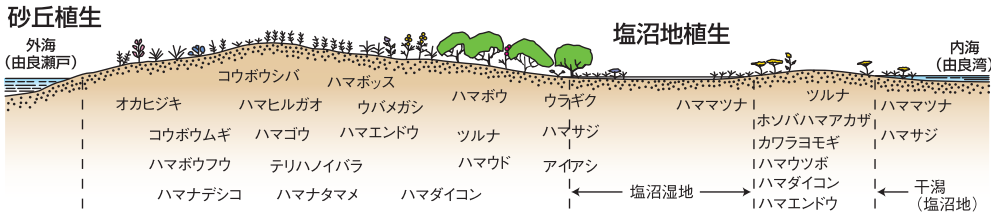
成ヶ島の植生は、外海側、内海側及び成山と、大きく3つに分けられます。

海浜(外海側)

潮の流れや波、風の影響を強く受けるため、礫浜と砂浜が混在して砂丘植生を形成し、ハマゴウ群落が優占して分布しています。

海浜(内海側)

潮の流れや波が穏やかであることから、砂の粒径は小さく、砂泥質の塩沼湿地植生の形成が見られます。



成山

約50種類の樹木で覆われています。成山北側・東側断崖地には、海岸岩上特有の崖地植生が見られます。

成ヶ島には多くの種類の植物が自生しており、早春から晩秋まで美しい花を咲かせて、訪れる人々の心をいやしてくれます。

〈主な春の花〉



〈主な夏から秋の花〉



〈成山の樹木〉



《成ヶ島の歴史と風土》

●応神天皇(日本書紀)、仁徳天皇(古事記)に詠まれた、由良の門(成ヶ島)

枯野を塩に焼き其が余り琴に作りかき弾くや 由良の門の門中の海石に触れ立つ浸漬の木のさやさや

「枯野」とは、巨木を切り倒してつくられた丸木船の船名で、日本最古の船名ともいわれています。この丸木船はたいへん速く走ったことから、この船で淡路島の清水が毎日天皇の元へ運ばれました。やがて船は朽ちて使えなくなりましたが、その功績を忘れないように船材を薪にして塩を焼きました。ところが、不思議なことにどうしても燃えない部分が残残り、その木で琴を作ったところ美しい音色は七里に響き、それは成ヶ島のヨシ原が波に揺れてざわめくようだったということです。

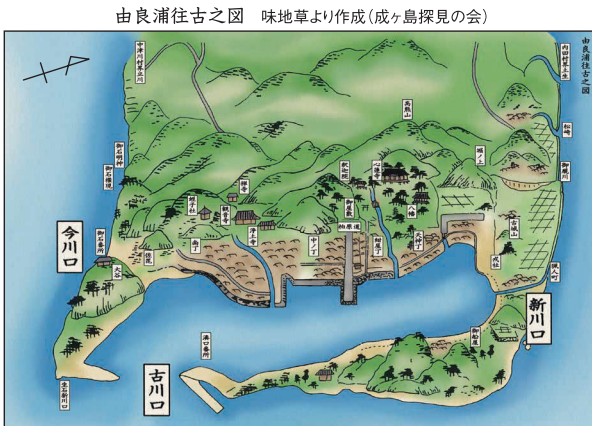
●由良湾の開削

古地図「正徳三年改正港口之図(味地草)」(1713年)によると、成山は現在の由良4丁目と、高崎は生石とつながり、由良湾は潟湖(ラグーン)でした。17～18世紀にかけて廻船問屋が台頭し、由良においても大型船の入港が不可欠なものとなり、北側を掘り開いて深い水路をつくる大工事が行われました。この開削工事により明和3年(1766年)に完成したのが新川口です。その後、寛政元年(1789年)と文政6年(1823年)の2回に分けて、生石・高崎間の水路、今川口の開削工事が行われました。この開削は近世の土木工事の粋を集めた、他に類を見ない工事史跡というべきものです。

●大阪湾の防衛～戦後

幕末、ペリー来航(1853年)後まもなく、幕府は安政元年(1856年)大阪湾防衛のため洋式砲台、高崎台場の築造命令を出し、これを受けた徳島藩は文政元年(1861年)フランス式砲台を高崎に完成させました。明治以降第二次大戦が終わるまで由良は軍隊の町となり、島は要塞として機密を守るため一般の人の立入はできませんでした。砲台場の跡には、砲座や弾薬庫などのレンガの建物が残されています。

昭和23年(1948年)には名称が「成山」から「成ヶ島」に改められました。



古川口は浅く波が高かったため、当時の大型の廻船問屋が出入りできなかった



出土した砲身(生石公園)

《成ヶ島の海辺の生き物》

成ヶ島の由良湾側は干潟が形成され、ハクセンシオマネキをはじめ多くの海岸動物が生息しています。

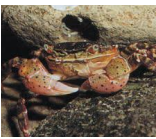
干潟の先にはアマモが群生し、稚魚や多くの生物が住みついています。また成山の北側や東側の山裾は礫浜となっており、干潟とは異なる生物を観察することができます。成ヶ島周辺の海辺では、300種類以上の貝類の生息が確認されており、その中には希少種も多く含まれています。



ハクセンシオマネキ



スジエビモドキ



インガニ



フトヘナタリ



ハサシヤコエビ



オウガニ



ニホンスナモグリ



オサガニ



アカテガニ



アサリ



アメフラン

問題点

現在、成ヶ島で起こっている問題として、①ゴミの漂着、②外来植物の繁茂があります。

①ゴミの漂着

海流の関係から、大阪湾を漂流したゴミが大量に成ヶ島に漂着、堆積し、美観を損ねているだけでなく、貴重な海浜植物や海浜動物の生育・生息をおびやかしています。地元住民や中学生、成ヶ島を美しくする会、洲本市、兵庫県、環境省により島の清掃活動が行われています。

②外来植物の繁茂

成ヶ島では、人間の活動などによって外国から運ばれ野生化した帰化植物が繁茂し、従来から島で育ってきた植生を脅かしはじめています。帰化植物としてナルトサワギクやアレチウリが確認されています。

ナルトサワギクやアレチウリは、外来生物法に基づく特定外来生物に指定され、栽培などが禁止されています。地元住民等によるこれらの駆除活動なども進められています。

成ヶ島でのお願い

成ヶ島の植生は豊かで、希少種を含む約300種類の樹木、草花や500種類以上の海岸動物が、生育・生息しています。みんな私たちの仲間です。これらの貴重な動物や植物と仲良くするために、次の約束を守ってください。

- 草木を折ったりタネを採ったりしないで下さい。
- 宿泊をとまなうキャンプはできません。
- 持ち込んだもの(ゴミ)は持ち帰りましょう。
- たき火はしないで下さい。
- 潮干狩りは決められた時期、区域で行いましょう。
- 観察のため石を裏返したら、元に戻しましょう。



成山山上広場

展望台

ハマゴウ群落

野草広場

ハマボウ群落

貴重な動植物が生育する干潟です。
注意して観察してください。

六本松

友ヶ島水道

塩沼湿地(えんしょうしち) (A)
(ハマサジ、ハママツナなど)

貴重な動植物が生息しています。
注意して歩いてください。

休憩所

砂浜
(アカウミガメ上陸)

切戸

由良湾

高崎灯台

今川口

成ヶ島渡船

運航日：金・土・日・月曜日の午前9時～午後5時（冬季は午後4時）
（臨時休業日・年末年始・お盆の休業日を除く国民の祝日は運航）

由良支所棧橋～成ヶ島棧橋（約0.2km・約2分） 料金：大人往復300円
生石棧橋～成ヶ島棧橋（約2.3km・約10分） 料金：大人往復500円

※注意：天候等により欠航する場合や臨時休業とする場合がありますので
事前に下記へ運航状況等をご確認下さい。

■お問い合わせ先
成ヶ島渡船事務所 0799-27-0691
洲本市商工観光課 0799-24-7613
<https://www.city.sumoto.lg.jp/soshiki/19/10513.html>



0 100 200 300 400 500 m



干潟



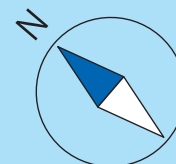
ハマボウ



ハクセンシオマネキ

面積	25ha
長さ	約3km
幅	約15m～330m

これより先
歩道は整備されていません
立ち入りをご遠慮ください。



成ヶ島散策ルート

所要時間

棧橋→成山山上（約15分）
棧橋→塩沼湿地(A)(約10分)

